

非血縁者間骨髄採取認定施設
採取責任医師各位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

採取骨髄液に混注された抗凝固剤(ヘパリン)が過少だった事例

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、非血縁者間骨髄採取において、採取骨髄液に使用された抗凝固剤(ヘパリン)が過少だった事例が発生しました。本委員会では背景要因や改善策等について調査中ではありますが、注意喚起の観点から採取認定施設へ周知することといたしました。

記

■ 概要

移植後、移植施設からバンクに以下の報告あり。

- ・受け取った骨髄液に、凝血塊に加え、繊維状の固形物が含まれていた。
- ・輸注中、何度もフィルターが目詰まりをし、終了までに長時間かかった。

【使用されたヘパリン濃度】

- ・骨髄液中の最終ヘパリン濃度 0.69 単位/ml (使用ヘパリン量 1,000 単位)

<採取施設からの報告>

- ・手術室、血液内科・小児科のマニュアルには、生食 500ml + ヘパリン 20,000 単位 (40 単位/ml) と記載されていたが、骨髄採取マニュアルの共有や周知が不十分であった。
- ・手術オーダー時にオーダーリングシステムによるオーダーをしていなかった。
- ・採取前、手術室で医師は看護師に確認されたため、ヘパリン 20,000 単位 (5,000 単位を 4 バイアル) と口頭で指示したが、看護師はダブルチェックをすることなく、生食 500ml に対して 2,000 単位で調剤した。
- ・採取中、採取後にヘパリン生食の濃度が異なることに気が付くことはなかった。
- ・骨髄バンクからの連絡後、記録を確認したところ、ヘパリン過少が発覚した。

■ お願い

各施設におかれましては、骨髄採取マニュアルや手順書等の再確認および共有、チェック体制の見直し等をお願いいたします。また、最終ヘパリン濃度には十分注意してください。

最終ヘパリン濃度は、通常 10 単位/ml 前後で用いることを推奨する。

([骨髄採取マニュアル「採取担当医師の見地から」P6](#))

以上